

18. 第1 蛇の章 2. ダニヤ経 1.

○毎田周一先生訳

私は飯も炊き 牛乳もしぼった
 と牛飼いだニアはいつた
 マヒー河の辺りに一緒に住み
 小屋の屋根は葺かれ 火はともされた
 さあ若しも降らさうと思うなら 神よ雨を降らせるがよい

○中村元先生訳

牛飼いだニヤがいった、
 「わたしはもう飯を炊き、乳を搾ってしまった。
 マヒー河の岸のほとりに、わたしは(妻子と)ともに住んでいます。
 わが小舎の屋根は葺かれ、火は点されている。
 神よ、もしも雨を降らそうと望むなら、雨を降らせよ。」

○正田大観先生訳

牛飼いのダニヤが [言った]
 「わたしは、飯を炊き、乳を搾った者として、[世に] 存しています。
 マヒヤー [川] の岸边に、[妻子や下僕たちと] 共に存する住居があります。
 小屋は [しっかりと] 覆われ、火が焚かれています。
 しかして、天よ、もし、望むなら、雨を降らせよ」と。

○1. Chapter 02 – URAGAVAGGA – DHANIYASUTTA

'I have boiled (my) rice, I have milked (my cows),' -- so said the
 herdsman Dhaniya, -- 'I am living together with my fellows near the
 banks of the Mahî (river), (my) house is covered, the fire is kindled:
 therefore, if thou like, rain, O sky!'

『 () が , () , -- 가 , -- ;
 , () 가 , () , ! , ;

," ;
 " ()가 가 ;
 ; ; ; !

○2. (2) Dhaniya

Dhaniya, "I've boiled my broth, I've drawn the milk,"
 Thus spake the herdsman Dhaniya,
 "I dwell with mates beside Mahi,
 Roofed is my hut, the fire burns bright :
 So if thou wish, rain, deva, rain !"

< > " "
 - -
 - -

○3. DHANIYA SUTTA

[When Buddha was living at Jetavana, in Savatthi, the cowherd, Dhaniya, dwelt in the hilly country of Videha, owning no less than thirty thousand head of cattle. One night after his day's work was finished, and his cattle had been placed under shelter, it began to rain heavily. As he lay down after his dinner, he, through inordinate joy, began to sing stanzas. Buddha heard them at Jetavana, and, wishing to lead him and his family to the road to Nibbana, appeared instantly in the skies, and answered each of Dhaniya's stanzas by one of his own.]

가 () (가) , < >가 , 가 , 3
 가 , , < >가 ,

I have finished my meal ; I have collected the milk ; I am living
 peaceably on the banks of the Mahi, surrounded by my wife and
 children ; my house is roofed, the fire is kindled. Rain on now, O
 cloud! If you will. Thus said the cowherd, Dhaniya.

;
 ;
 ! < >가 , , ,

○パーリ語原文

“Pakkodano duddhakhīrohamasmi,

飯を炊き 乳を搾って 私はある

(iti dhaniyo gopo)

と ダニヤが 牛飼い

Anutīre mahiyā samānavāso;
 岸边に マヒヤーの 共に住む住まいが
 Channā kuṭi āhito gini,
 よく葺かれ 小屋は 燃えている 火が
 atha ce patthayasī pavassa deva”.
 また もし 望むならば 雨を降らせ 神よ

17 < > (), 2 『 』 30,000 『 』 『 』
 < >가 가 ,
 < - > (每田 周一, 1906~67) ,
 ! ,
 「 」 < >가 가
 「 」 ,가
 < > 3 ,
 「 - 가 」 , 가 - 가
 「 가 」 , 1
 「 가 」 , 가
 가 ,
 「 , 가 !」 ?

19. 第1 蛇の章 2. ダニア経2

○毎田周一先生訳

私は怒りを断ち 荒んだ心を離れた
 と世尊はいはれた
 マヒー河の辺りに 一夜の宿りを求め
 小屋はあばかれ 火は消された
 さあ若しも降らさうと思うなら 神よ雨を降らせるがよい

○中村元先生訳

師は答えた、
 「わたしは怒ることなく、心の頑迷さを離れている。
 マヒー河の岸のほとりに一夜の宿りをなす。
 わが小舎(すなわち自身)はあばかれ、(欲情の)火は消えた。
 神よ、もしも雨を降らそうと望むなら、雨を降らせよ。」

○正田大観先生訳

世尊(ブツダ)は[答えた]
 「わたしは、怒りなく、鬱屈を離れ去った者として、[世に]存しています。
 マヒヤー[川]の岸边に、一夜の住居があります。
 小屋(身体)は開かれ(その正体は暴露され)、[貪欲の]火は寂滅しています。
 しかして、天よ、もし、望むなら、雨を降らせよ」と。

○1

'I am free from anger, free from stubbornness,'—so said
 Bhagavat,—'I am abiding for one night near the banks of the Mahî

' () ; , , !'
 () ; , , !'

(river), my house is uncovered, the fire (of passions) is extinguished:
therefore, if thou like, rain, O sky!

○2
The Master “I've foiled my wrath, I've fertile ~~mmd~~,
mind”
Thus spake the Master in reply,
“I dwell one night beside Mahi,
Open my hut, cooled down my fire :
So, &c,” <반복구; So if thou wish, rain, deva, rain !>

○3
I am free from anger, free from stubbornness ; I am living for a
night on the banks of the Mahi ; my house is roofless, the fire is
extinguished. Rain on now, O cloud! If you will. Thus said Bhagava.

○パーリ語原文

“Akkodhano vigatakhilohamasmi,
怒りなく 頑迷でない 私は

(iti bhagavā)
と 世尊は

Anutīre mahiyekarattivāso;
河辺に マヒヤーの一夜の住まい

Vivaṭā kuṭi nibbuto gini,

開かれ 小屋は 寂滅した 火は

Atha ce patthayasī pavassa deva".
時に もし 望むなら 降らせよ 神よ

, 18 < >가

< >가 「 가 」 .
가 「 가 」 가
, 1 1 「 」 .

< > 「 」 . 「 」 .
, 가 , , 「 」 .

, < >가 「 」 .
< > 가 가 , (無常) ,

가 < > 「 」 . ,

「 << >> 「 」 . , ,

153 , 154 .

153

154

, ! !

, ,

「 < > 가 , 가 !」 . < > , 가 , 가 . < > .

21 . 第2 蛇の章 ダニヤ経4

○毎田周一先生訳

筏はしっかりと組まれた

と世尊いはれた

激流は渡ってすでに彼岸に達してゐる

筏の必要はもはやない

さあ若しも降らさうと思ふなら 神よ雨をふらせるがよい

○中村元先生訳

師は答えた、

「わが筏はすでに組まれて、よくつくられていたが、

激流を克服して、すでに渡りおわり、彼岸に到着している。

もはや筏の必要はない。

神よ、もしも雨を降らそうと望むなら、雨を降らせよ。」

○正田大観先生訳

世尊は[答えた]

「まさに、筏[いかだ]は、結び縛られ、頑丈に作られました。

彼岸に至った超渡者は、激流(渴愛の思い)を取り除くでしょう。

[もはや]筏に、義(意味)は見い出されません。

しかして、天よ、もし、望むなら、雨を降らせよ」と。

[] , () , () .
[] , () , () .

' ()
 ---' () ; , , () ; ! ;

○1

'(By me) is made a well-constructed raft,'—so said Bhagavat,—'I have passed over (to Nibbâna), I have reached the further bank, having overcome the torrent (of passions); there is no (further) use for a raft: therefore, if thou like, rain, O sky!'

" ;
 " ; ;

○2

The Master "Well fashioned was the bonded raft,"
 Thus spake the Master in reply,
 "But none's the need of raft for him,
 Crossed and yon-fared, the flood-tide ridden :

So, &c,"
 ; So if thou wish, rain, deva, rain!

○3

My raft is bound together, and well made ; having crossed the flood (of existence) and swum through it, I have arrived at the other shore ; there is no further use for the raft. Rain on now, O cloud, if you will. Thus said Bhagavan.

; () 가 , ; . , .

○パーリ語原文

"Baddhāsi bhisi susaṅkhatā,
よく組まれ 筏は よく作られていました。

(iti bhagavā)

と 世尊は

Tiṇṇo pāragato vineyya oghaṃ;
渡った 彼岸に至った 克服して 激流を

Attho bhisiyā na vijjati,
意義は 筏の ない 見出せ

atha ce patthayasī pavassa deva".

また もし 望むならば 降らせよ 神よ

(20) < >

가

『

가

가

?

< >

?

()

『

』

~~21~~. 第2 蛇の章 2. ダニア経 ~~4~~。

○毎田周一先生訳

私の妻は忠実でみだらではない

と牛飼いダニアはいつた

長い年月を共に住んでまことに好ましく

よからぬ噂など一つもきいたことがない

さあ若し降らさうと思ふなら 神よ雨をふらせるがよい

○中村元先生訳

牛飼いダニヤがいった、
『わが妻は従順であり、貪ることがない。久しくともに住んできたが、わが意に適っている。かの女にいかなる悪のあるのをも聞いたことがない。神よ、もしも雨を降らそうと望むなら、雨を降らせよ。』

「わが牧婦(=妻)は従順であり、貪ることがない。

久しくともに住んできたが、わが意に適っている。

かの女にいかなる悪のあるのをも聞いたことがない。

神よ、もしも雨を降らそうと望むなら、雨を降らせよ。」

○正田大観先生訳

牛飼いのダニヤが [言った]

「わたしの牛飼い女 (妻) は、従順で、 [心が] 動きません。

長夜にわたり、共に住み、意に適う者です。

何であれ、彼女についての悪しき [話] を、 [わたしは] 聞きません。

しかして、天よ、もし、望むなら、雨を降らせよ」と。

○1

'My wife is obedient, not wanton,'—so said the herdsman Dhaniya,—'for a long time she has been living together (with me), she is winning, and I hear nothing wicked of her : therefore, if thou like, rain, O sky!'

() ; , , ; , ; 가 ! !

○2

Dhaniya “Obedient is my wife, no trull,”
 Thus spake the herdsman Dhaniya,
 “Long hath she been a loving mate,
 No rumoured wrong I hear of her :
 So if thou wish^ rain, deva, rain !”

○3

**My wife is obedient, not wanton, has lived
 long with me (and) is agreeable ; I hear of no
 sin (attributed) to her. Rain on now, O cloud !
 if you will. Thus said the cowherd, Dhaniya.**

○パーリ語原文

“Gopī mama assavā alolā,
 牛飼い女 私の 従順な 不動な
 (iti dhaniyo gopo)
 と ダニヤは 牛飼い

Dīgharattaṃ saṃvāsiyā manāpā;
 長い夜に 共に住み 意に適う

Tassā na suṇāmi kinci pāpaṃ,
 彼女について ない 私は聞か 何も 悪いことを
 Atha ce patthayasī pavassa deva”.
 また もし 望むならば 降らせよ 神よ

23 . 第2 蛇の章 2 . ダニア経 6

『 』

ガ

○毎田周一先生訳

私の「心」は 忠実で解放されてゐる

と世尊はいはれた

長い年月をよく養はれ調へられて

道を外れようにも外れやうがない

さあ若し降らさうと思ふなら 神よ雨をふらせるがよい

『 』

○中村元先生訳

師は答えた、 『 』

「わが心は従順であり、解脱している。

永いあいだ修養したので、よくととのえられている。

わたしにはいかなる悪も存在しない。

神よ、もしも雨を降らそうと望むなら、雨を降らせよ。」

『 [』

○正田大観先生訳

世尊は[答えた] 『 』

「わたしの心は、従順で、解脱しています。

長夜にわたり、完全に修められ、善く調御されています。

そして、わたしに、悪は見い出されません。

しかして、天よ、もし、望むなら、雨を降らせよ」と。

○1

'My mind is obedient, delivered (from all worldliness),'—so said Bhagavat,—'it has for a long time been highly cultivated and well—subdued, there is no longer anything wicked in me: therefore, if thou like, rain, O sky!'

○2

The Master "Obedient is my mind and freed,"
Thus spake the Master in reply,
"Long hath it been well quickened, tamed,
No ill is found or known in me :
So if thou wish, rain, deva, rain! "

quicken < ? >
v.t.
1. to make more rapid; accelerate; hasten:
2. to give vigor to; stimulate: to quicken the imagination.
3. to restore life to; revive:
v.i.
4. to become more rapid.
5. to become alive.

○3

My mind is free from passions, is released (from worldly attachments), has long been under training, is under thorough control ; there is no sin whatever in me. Rain on now, O cloud ! if you will. Thus said Bhagava.

○パーリ語原文

24. 第2 蛇の章 2. ダニア経 7 가

가

○每田周一先生訳

私は自分で働いて暮らしをたててゐる
と牛飼いだニアはいつた
子供は一人残らず健康で
人から小言など一つも聞いたことがない
さあ若しも降らさうと思ふなら 神よ雨をふらせるがよい

○中村元先生訳

牛飼いだニヤがいった、
「私は自活しみずから養うものである。
わが子らはみなともに住んで健やかである。
かれらにいかなる悪のあるのを聞いたことがない。
神よ、もし雨を降らそうと望むなら、雨を降らせよ。」

○正田大観先生訳

牛飼いのだニヤが [言った]
「わたしは、自己の稼ぎで [自らを] 養う者として、 [世に] 存して
います。
そして、共に存するべき、わたしの子供たちも、無病 [息災] です。
何であれ、彼らについての悪しき [話] を、わたしは聞きません。
しかして、天よ、もし、望むなら、雨を降らせよ」と。

○1

‘ I support myself by my own earnings, ’ — so said the herdsman
Dhaniya, — ‘ and my children are (all) about me, healthy ; I hear
nothing wicked of them: therefore, if thou like, rain, O sky ! ’

가

() ;

○2

Dhaniya “ By earnings I support myself, “

" 가 "

"

! "

Thus spake the herdsman Dhaniya,
 “Hale sons and I together dwell,
 No rumoured wrong I hear of them :
 So if thou wish, rain, deva, rain ! “

가 , , ;
 ! . .

○3

I am maintained by my own wealth, and my children are living with me, free from disease ; I do not hear of any sin attributed to them. Rain on now, O cloud ! if you will. Thus said the cowherd, Dhaniya.

○パーリ語原

“Attavetanabhatohamasmi,
 自分の 賃金で 養う 私は ある

(iti dhaniyo gopo)
 と ダイヤは 牛飼い

Puttā ca me samāniyā arogā;
 子供たちは また 私の とともに 無病

Tesaṃ na suṇāmi kinci pāpaṃ,
 彼らについて ない 私は聞か 何であれ 悪を

Atha ce patthayasī pavassa deva”.
 また もし 望むならば 雨を降らせ 神よ

< > ,
 , < > , 「 가 」 .

가?

()

30,000

< 「 > 가

「 , < >

가
가

가

가

가

*

?

< >

가?

가

25 . 第2 蛇の章 2 . ダニア経 8

○每田周一先生訳

私は誰にも使われてはいない

と世尊はいはれた

求めて得たものでこの世に自由に生きて

働きへの報酬など受取りはしない

さあ若しも降らさうと思ふなら 神よ雨をふらせるがよい

○中村元先生訳

師は答えた、

「わたしは何人の傭い人でもない。

みずから得たものによって全世界を歩む。

他人に傭われる必要はない。

神よ、もし雨を降らそうと望むなら、雨を降らせよ。」

○正田大観先生訳

世尊は[答えた]

「わたしは、誰の雇われでもなく、[世に]存しています。

一切世[界]において、[行乞で]得たものによって、歩みます。

[もはや]雇われることに、義(意味)は見い出されません。

しかして、天よ、もし、望むなら、雨を降らせよ」と。

○1

'I am no one's servant,'—so said Bhagavat,—'with what I have gained I wander about in all the world, there is no need (for me) to serve: therefore, if thou like, rain, O sky!'

가 , (가) ;
, !'

○2

The Master " Servant to none whate' er am I, "
Thus spake the Master in reply,
" I fare the world with wages won
Nor find nor know the need to earn :
So if thou wish, rain, deva, rain! "

" , "
" ,
() ;
, , , !"

○3

I am not a servant of any ; independent (of all) I move in all worlds ; there is no advantage in serving (others). Rain on now, O cloud ! if you will. Thus said ~~the cowherd, Dhaniya.~~

Bhagava.

() ; ;
, . , .

○パーリ語原文

"Nāhaṃ bhatakosmi kassaci,

ない 私は 使用人 では 誰の

(iti bhagavā)

と 世尊は

Nibbiṭṭhena carāmi sabbaloke;

得たものによって 行く 全世界を

Attho bhatiyā na vijjati,

必要は 報酬に ない 見出さ

Atha ce patthayasī pavassa deva".

また もし 望むなら 雨をふらせ 神よ

24 < > 「 가 」 .
, GIVE() & TAKE()
가
, TAKE() GIVE()

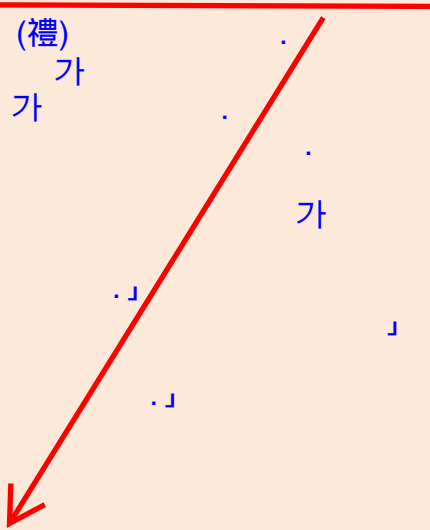
(托鉢 -)
(托鉢 -)
(求)

가 , (比丘 -) (禮)
, GIVE & TAKE 가 가

「
(中村)
(每田)

[가 }
가 가

가



26 . 第2 蛇の章 2 . ダニア経 9

가

가

○毎田周一先生訳

子牛も 乳を飲んでいる子牛もゐる

と牛飼いだニアはいつた

子を持つ牛も これから子を持つ牛もゐて

牛達の王である牝牛も亦ゐる

さあ若し降らさうと思ふなら 神よ雨をふらせるがよい

가

○中村元先生訳

牛飼いだニヤがいった、

「未だ馴らされていない牛もいるし、

乳を飲む仔牛もいる。孕（ハラ）んだ牝牛もいるし、交尾を欲する牝牛もいる。

牝牛どもの主である牝牛もいる。

神よ、もし雨を降らそうと望むなら、雨を降らせよ。」

○正田大観先生訳

牛飼いのだニヤが[言った]

「[わたしには]子牛が存在します。乳牛（母牛）が存在します。[子を]

宿した雌牛が[存在します]。[子を]宿したことのない雌牛もまた、存在

가[] 가 ()가
 [] 가[] . []
 가 , , .
 します。

さらには、牛たちの主 [あるじ]たる雄牛もまた、存在します。
 しかして、天よ、もし、望むなら、雨を降らせよ」と。

가 , 가 , ' --- 가 --- ;
 가 , !

○1

' I have cows, I have calves, ' --- so said the herdsman Dhaniya ;---
 ' I have cows in calf and heifers, and I have also a bull as lord over
 the cows : therefore, if thou like, rain, O sky! '

" 가 , " ;
 가 ;

○2

Dhaniya " See here are goodly cows and calves, " !"
 Thus spake the herdsman Dhaniya,
 " And here are breeders great with calf,
 And here the bull, lord of the herd :
 So if thou wish, rain, deva, rain ! "

○3

There are (to me) young cows, calves, cows big with young, and
 young cows full of vigor, and bulls, lords of the herd, Rain on now,
 O cloud ! if you will. Thus said the cowherd, Dhaniya.

() , , 가 . 가 ,
 ! . 가 .

27. 第2 蛇の章 2. ダニア経 10

가

○每田周一先生訳

子牛も 乳を飲んでゐる子牛もゐない

と世尊はいはれた

子を持つ牛も これから子を持つ牛もゐないし

牛達の王である牝牛も ここにはゐない

さあ若し降らさうと思ふなら 神よ雨をふらせるがよい

○中村元先生訳

師は答えた、

「未だ馴らされていない牛もいないし、乳を飲む仔牛もいない。

孕んだ牝牛もいないし、交尾を欲する牝牛もいない。

牝牛どもの主である牝牛もここにはいない。

神よ、もし雨を降らそうと望むなら、雨を降らせよ。」

○正田大観先生訳

世尊は[答えた]

「[わたしには]子牛は存在しません。乳牛(母牛)は存在しません。

[子を]宿した雌牛は[存在しません]。[子を]宿したことの無い雌牛もまた、

存在しません。

[]

『[] ()

[] [] []

、 、 、 、 』

ここには、牛たちの主たる雄牛もまた、存在しません。
しかして、天よ、もし、望むなら、雨を降らせよ」と。

○1

' I have no cows, I have no calves, '—so said Bhagavat,—' I have no cows in calf and no heifers, and I have no bull as a lord over the cows: therefore, if thou like, rain, O sky! '

○2

The Master " No goodly cows and calves are here,"

Thus spake the Master in reply,

" Here are no breeders great with calf,

Here is no bull, lord of the herd :

So if thou wish, rain, deva, rain! "

○3

To me there are no young cows, no calves, no cows big with young, no young cows full of vigor, no bulls, lords of the herd. Rain on now, O cloud ! if you will. Thus said Bhagava.

!

< > 가
『 』 『 』

< > 가 ?

가 * * *

가 가 가

< > 가

1 1 가 (虛假) (9)]

가 가

가

()

62 :

?

!

< >가 5

가 가(世間虛假)가

(名實) 「 (無一物) 」

< >

< (Saccharum munja), 가



28 . 第2 蛇の章 2 . ダニア経 11

○毎田周一先生訳 가

杭は深く揺るがぬやうに打ちこまれた

と牛飼いだニアはいつた

ムンジャ草の縄は新たにしつかりとなはれた なう[綯う]-なわれる <なふい>

子牛達がそれを到底切ることができないやうに

さあ若し降らさうと思ふなら 神よ雨をふらせるがよい

가 ,

○中村元先生訳 『 가 , . 』

牛飼いだニヤがいった、

「牛を繋ぐ杭は、しっかり打ち込まれていて揺るがない。

ムンジャ草でつくった新しい縄はよくなわれている。

仔牛もこれを断つことができないであろう。

神よ、もし雨を降らそうと望むなら、雨を降らせよ。」

『 [] 가 [] [] , . 』

○正田大観先生訳 『 [] 가 [] [] , . 』

牛飼いのだニヤが[言った]

「[深く]掘られた 諸々の杭は揺るぎなく、

ムンジャ[草]で作られた諸々の縄は新しく、善く綯[な]われています

。

まさに、乳牛たちでさえも、断ち切ることはできないでしょう。

しかして、天よ、もし、望むなら、雨を降らせよ」と。

○1

' The stakes are driven in, and cannot be shaken, '— so said the herdsman Dhaniya, — ' the ropes are made of mu/ñg/a grass, new and well-made, the cows will not be able to break them: therefore, if thou like, rain, O sky!'

○2

Dhaniya " The stakes are sunk unshakable, " Thus spake the herdsman Dhaniya, " The rush-made cords are woven new. Truly no calves can break out now : So if thou wish, rain, deva, rain! "

○3

The stakes are driven in, they cannot be shaken ; there are chains made of grass, new and twisted, which likewise the calves cannot break. Rain on now, O cloud ! if you will. Thus said the cowherd, Dhaniya.

○パーリ語原文

"Khilā nikhātā asampavedhī,
杭 掘った 揺るがない
(itī dhaniyo gopo)
と ダニヤ 牛飼い

Dāmā munjamayā navā susaṅṭhānā;

繩から

ムンジャ草製の

新しい

よくなわれた

Na

hi

sakkhinti

dhenupāpi

chettum,

ない

実に

でき(ない)だろう

子牛(乳牛)も

切断する

Atha

ce

patthayasī

pavassa

deva".

また

もし

望むならば

雨を降らせ

神よ

<

>

가

가

,

.

.

.

,

(

)

,

.

.

,

,

,

.

.

,

,

.

,

가

.

,

.

,

가

,

,

,

(物欲)

.

,

.

?

가

,

가

가

.

,

,

*

*

,

.

가 가 가 .
30 . 第2 蛇の章 2 . 다니아經 13

○每田周一先生訳

平地にも丘にも溢れるほど
みる間に大きな雲が雨を降らせた
神が雨を降らせるのを聞いて
牛飼は次のやうにいつた・・・

○中村元先生訳

忽(タチマ)ちに大雲が現われて、
雨を降らし、低地と丘とをみたした。
神が雨を降らすのを聞いて、
ダニヤは次のことを語った。

○正田大観先生訳

低地と高地とを潤しながら、
まさしく、ただちに、大雲が雨を降らせた。
天が雨を降らせるのを聞いて、
ダニヤは、この義(意味)を語った。

○1 가 , . ;
 Then at once a shower poured down, filling both sea and land.
 Hearing the sky raining, Dhaniya spoke thus:

○2
 Then burst a mighty cloud of rain,
 Flooding the hollows and the land,
 Whereat the herdsman spake this thing,
 Hearing the storm and deva-roar :

() ;
 ○3 ; - - - -
 (By the compiler.) The great cloud rained much, filling at the
 same time hollows and levels ; hearing the raining of the cloud,
 Dhaniya said thus ; -----

○パーリ語原文

"Ninnanca thalanca pūrayanto,
 低地 と 高地 と 水を溢れさせながら
 Mahāmegho pavassi tāvadeva;
 大雲が 雨を降らせた ただちに
 Sutvā devassa vassato,

‘ () () ;
, () () ;
, !

○1

'No small gain indeed (has accrued) to us since we have seen
Bhagavat; we take refuge in thee, O (thou who art) endowed with the
eye (of wisdom); be thou our master, O great Muni!'

" ! , , 가 ! ;
, ! , 가 ! ;
!"

○2

Dhaniya " O gain indeed ! No small gain this,
We who have seen the Master here !
Unto thy refuge, seer, we go ;
Be thou our teacher, mighty sage ! "

! 가 ! ()
! 가 !

○3

Whoever of us Bhagavá, his advantage is indeed not small. Let us
seek refuge (in him). O Five-eyed One ! O great sage ! be thou
a teacher to us. Thus said Dhniya.

(五眼) ; 가

(1) eyes of flash ; (2) divine eyes ; (3) eyes of wisdom ; (4) the special eye of a Buddha ;
(5) the omniscient eye.

○パーリ語原文

"Lābhā vata no anappakā,

利得は 実に われらの 多くの

Ye mayaṃ bhagavantaṃ addasāma;

それは われらが 世尊を 見た

Saraṇaṃ taṃ upema cakkhuma,

拠り所に あなたに 近づく 眼のある方よ

Satthā no hohi tuvaṃ mahāmuni.

先生で 私たちの あれ あなたは 偉大なる聖者よ

『 (>)가

』 가?

가

』 < >

가

가

< >

< >

32 . 第2 蛇の章 2 . ダニア経 15

『 가 』 가 가

○每田周一先生訳

私の妻も私も忠実にお教へ従ひます
「善く逝ける」あなたの許で清らかな修行をつみ
生と死の彼岸に渡り
苦しみのはてを超えてまゐります

()

○中村元先生訳

妻もわたしもともに従順であります。
幸せな人(ブッタ)のもとで清らかな修行を行いましょう。
生死の彼岸に達して、
苦しみを滅しまししょう。」

○正田大観先生訳

牛飼い女(妻)も、わたしも、従順です。
善き至達者(ブッタ)のところで、梵行(禁欲清浄行)を行じおこない
ます。 , [行(おこない)じます]
...行 行 .
生と死の彼岸に至り、
苦しみの終極[おわり]を為す者たちに成ります」[と]。

() , () , ()

』 [] .

' ; () 가 . '

○1

' Both my wife and myself are obedient; (if) we lead a holy life before Sugata, we shall conquer birth and death, and put an end to pain. '

() " , ; ! "

○2

(Dhaniya) " Obedient, the wife and I
 <14(31)> -- Will fare Wellfarer's godly life :
 Yon-farers over birth-and-death,
 Enders of ill will we become ! "

○3 () ; () ; ()
 Let (my wife) the shepherdess and myself becoming obedient, practise a holy life in honour of Sugata (Buddha) ; let ~~us~~ (putting an end to our sorrow) become such as have gone past births ~~ans~~ and deaths.

Sugata ; Buddha.
 "Tathagata - (如來-), (如去- (善逝), "
 (tautology) , Buddha Nibbana

○パーリ語原文

"Gopī	ca	ahanca	assavā,
牛飼い女	と	私は と	従順な
brahmacariyaṃ		sugate	carāmaṣe;

梵行を 善き人の所で 行います

Jātimaraṇassa pāragū ,

生死の 彼岸に至り

dukkhassantakarā bhavāmase".

苦の終極を為す者に なりましょう

< > (14 (31)) .

「 (Gopi) 」 < > 가 " 가 가 " (),

「 (梵行-brahmacariyam) 」 (性的)

「 (善き人の所で行います ; sugate caramase) 」

「 (Jatimaranassa paragu) 」

「 (苦) (終極) (dukkhassantakara) 」

< > .
< > , < > 가 ,

依存[の対象]なき者——彼は、まさに、喜ぶことがない」と。

○1 ' 가 , ' --- 가 ,
 --- ' 가 ; ()가
 , 가

' He who has sons has delight in sons, ' -- so said the wicked Mâra,
 --' he who has cows has delight likewise in cows; for upadhi
 (<substance>) is the delight of man, but he who has no upadhi has no
 delight. '

() " 가 , 가 ,
 ;
 " .

○2

Mara " Whoso hath sons delights in sons,"
 Thus Mara spake, the Evil One,
 " The cowherd too delights in kine :
 Affections are delight to man, Upadbi, (rebirth) .
 Th' affection-less hath no delight. "

가
 ()가

He who has children is pleased with the children. He who has
 cattle is likewise pleased with the cattle. The happiness of man
 consists in objects of desire. He who is without objects of desire, is
 indeed not happy. Thus said the sinful Mâra (the Tempter).

Mara. < 6 (天魔)> -- The Tempter, the evil principle, the hinderance to heaven.

6 Kama가 ,
 Southey 가 , " Curse of Kehama "

Mephistopheles<*

Southey, " Curse of Kehama " ;

○パーリ語原文

"Nandati	puttehi	puttimā,		
喜ぶ	<u>子によって</u>	子を持つ人は		
	(iti	māro	pāpimā)	
	と	<u>悪魔</u>	<u>パピーマは</u>	
Gomā	gohi	tatheva	nandati;	
牛を持つ人は	<u>牛によって</u>	まさにそのように	喜ぶ	
Upadhī	hi	narassa	nandanā,	
<u>依存は</u>	実に	人々の	喜び	
Na	hi	so	nandati	yo
ない	実に	彼は	喜ば	者は
				<u>nirūpadhi".</u>
				<u>依存のない</u>

「Na hi so nandati yo nirūpadhi". (maro papima) 가 .
 , ! ! !
 , 가 ! ! !
 , !」
 < >가 .
 . 가 .
 , .
 < >
 ,

“Socati 悲しむ	puttehi 子によって	puttimā, <u>子を持つ人は</u> (iti と bhagavā) 世尊は
Gopiyo <u>牛を持つ人は</u>	gohi 牛によって	tatheva そのように
Upadhī <u>依存は</u>	hi 実に	narassa 人々の
Na ない	hi 実に	so 彼は
	socati 悲しま	yo 者は
		nirūpadhī” <u>依存のない</u>
		ti. と

< > 가 ,
 , . ,
 , .
 「 가 , , !
 , 가 !
 , 가 ,
 .」
 가 . < > .
 < > " "
 (幸福論) ,
 < >가 (俗世間) ,
 < >가 () ,
 < > 가 .
 (俗世間) 가 .
 , (, 가) .
 .
 .가 가 , ,
 , , , .
 , , 가 .
 !

